

月別市況

1月

[切花]

取扱数量は前年比 3.3%減で、平均単価は前年比 37.3%高であった。昨年からの天候不順の影響で生育の遅れ等が生じ、入荷量は減少した。成人式等のイベント需要及び業務需要が例年より活発な動きであったことから堅調な相場となった。

主要品目別では、「輪菊」は、前年と比較して入荷量は減少した。業務需要が活発な動きから品薄な状況もあり単価高となった。「スプレー菊」は、前年と比較して入荷量は増加した。業務需要の引き合いが強く、単価高となった。「バラ」は、中国産の入荷が新規に始まり、前年と比較して入荷量は増加した。成人式需要により高値推移となった。「スイトピー」は、前年と比較して入荷量は増加した。スイトピーの日関連等の需要が活発な動きから堅調な相場となった。

[鉢物]

取扱数量は前年比 6.1%減で、平均単価は前年比 5.0%高であった。鉢花は、気温が低く引き合いも弱かったため、前年と比較して入荷量は減少したものの、単価安となった。観葉植物は、前年と比較して入荷量は減少し、単価高となった。

主要品目別では、「プリムラ類」は、一部品目において入荷が好調で、前年と比較して入荷量は増加し、単価高とな

った。「サイネリア」は、前年と比較して入荷量は減少し、単価高となった。「カランコエ」は、新品種等の入荷も見られ、前年と比較して入荷量は増加し、単価高となった。「シンビジウム類」は、前年と比較して入荷量は減少し、単価高となった。

2月

[切花]

取扱数量は前年比 8.4%減で、平均単価は前年比 19.5%高となった。寒波による生育遅延等が生じた品目もみられ比較的暖冬傾向であった前年を下回る入荷量となった。中旬以降のフラワーバレンタインや桃の節句等のイベント需要もあり品薄単価高傾向で推移した。

主要品目別では、「輪菊」は、前年と比較して入荷量は減少した。業務需要の引き合いが強く、堅調な相場展開となった。「バラ」は、前年と比較して入荷量は減少した。業務需要の引き合いが強く、堅調な相場展開となった。「スイトピー」は、前年と比較して入荷量は増加したものの、品薄感から単価高となった。「チューリップ」は、生産量減少もあり前年を下回る入荷となった。単価は業務需要中心に堅調な相場となった。

[鉢物]

取扱数量は前年比 10.4%減で、平均単価は前年比 2.6%高であった。光熱費の負担増に伴い厳寒期のハウス加温不足等もあり、前年同様、平年を下回る入荷量とな

た。鉢花は、前月同様引き合いが弱く、前年を下回る入荷量となったものの、単価安となった。らん鉢は、平年を大きく下回る入荷量となり、堅調な相場で推移した。

主要品目別では、「プリムラ類」は、一部品目において入荷が好調で、前年と比較して入荷量は増加し、単価高となった。「サイネリア」は、小鉢中心に引き合いがあり、前年と比較して入荷量は増加し、単価安となった。「ゼラニウム」は、寒さの影響から入荷の遅れが生じ、前年と比較して入荷量は減少し、引き合いが弱く単価安となった。「ランコエ」は、1月出荷分がずれ込み前年を上回る入荷量となったものの、堅調な相場となった。

3月

[切花]

取扱数量は前年比 2.7%増で、平均単価は前年比 12.6%安であった。気温の変動が大きく、品質面での不安定さも多かったが、前年を上回る入荷量となった。彼岸入り前の天候不順や需給のバランスが合わず、前年を下回る単価となった。

主要品目別では、「輪菊」は、前年と比較して入荷量は減少した。彼岸入り直前から入荷は増加したことで潤沢感が生じ、低迷した相場となった。「スプレー菊」は、前年と比較してほぼ同量の入荷となった。一部産地では生育遅れが生じ、お彼岸需要期以降の引き合いは弱まり、前年と比較して単価安となった。「バラ」は、前年と比較して入荷量は減少した。卒業式や送別会等のイベント需要もあったもの

の、特に高値で推移した前年と比較して単価安となった。

「ガーベラ」は、卒業式等の需要があったものの、非常に安定した入荷となり、前年と比較して入荷量は増加し単価安となった。「チューリップ」は、歓送迎会需要等があったものの潤沢な入荷となり、前年と比較して入荷量は増加し、軟調な相場となった。

[鉢物]

取扱数量は前年比 2.6%増で、平均単価は前年比 4.6%安であった。鉢花は、前年と比較して入荷量は増加し、単価安となった。らん鉢は、前年と比較してほぼ同量の入荷となった。年度末需要もあり引き合いはあったものの、一部品目では単価安となり、前年を下回る相場となった。観葉植物は、前年と比較して入荷量は減少し、単価高となった。

主要品目別では、「サイネリア」は、卒業式需要等があったものの、前年と比較して入荷量は増加し単価安となった。

「ゼラニウム」は、天候要因による開花遅延が生じ、前年を下回る入荷となり、引き合いも弱く単価安となった。

「ランキユラス」は、前年と比較して入荷量は減少し、不安定な相場から単価安となった。「アザレア」は、開花が前進し、前年を上回る潤沢な入荷量となり単価は前年を下回った。「ファレノプシス」は、前年と比較して入荷量は減少した。年度末需要等があり、引き合いが強くなり前年を上回る相場となった。

4月

[切花]

取扱数量は前年比 6.8%減で、平均単価は前年比 2.8%安であった。天候の影響により一部生育に遅延等が生じた品目もあり、前年と比較して入荷量は減少した。業務需要等の低迷もあり引き合いが弱く、軟調な相場となった。

主要品目別では、「輪菊」は、業務需要は低調であり前年と比較して入荷量が減少し、単価安傾向であった前年と比較して単価高となった。「カーネーション」は、母の日需要に向けて数量が増加し、前年と比較して入荷量は増加した。潤沢感から相場は低迷し、単価安となった。「アルストロメリア」は、気温の上昇に伴い生育遅延が解消されたものの前年を下回る入荷量となり、引き合いも弱く軟調な相場となった。「ガーベラ」は、前年と比較して入荷量は減少し、母の日需要には早いこともあり単価安となった。

[鉢物]

取扱数量は前年比 4.1%減で、平均単価は前年比 3.7%高であった。鉢花は、前年に比べ入荷量は減少した。母の日商材が全般的に遅れ気味で引き合い弱く、前年を下回る相場となった。らん鉢は、前年に比べ入荷量は減少した。人事祝い需要等があり、引き合いが強く、前年を上回る相場となった。

主要品目別では、「ベゴニア類」は、前年に比べ入荷量は減少し、単価高となった。「ファレノプシス」は、人事祝い需要等で前半は引き合いが強く入荷も多かったものの、後

半は開花遅延や引き合いの弱まり等もあり、前年に比べ入荷量は減少し前年を上回る相場となった。「ポトス」は、前年に比べ入荷量は減少したものの、前年並みの相場となった。「ハイドランジア」は、母の日向け生産により後半の入荷は多かったものの、前年を下回る入荷量となった。後半の相場は安定し、単価は前年を上回る相場となった。

5月

[切花]

取扱数量は前年比 8.5%減で、平均単価は前年比 15.3%安であった。母の日需要となる一部品目で4月に生育前進傾向があったこと等により、前年と比較して入荷量は減少した。母の日のギフト需要及び母の日参り等での連休中の仏花の引き合いはともに弱く、前年と比較して単価安となった。

主要品目別では、「輪菊」は、前年と比較して入荷量は減少した。前月から引き続き仏花需要は低調で単価安となった。「カーネーション」は、前年と比較して入荷量は減少した。前半には母の日需要があったものの、それ以降は単価安傾向となり、前年を下回る相場となった。「バラ」は、前年と比較して入荷量は減少した。母の日需要があったものの、前年を下回る相場となった。「スターチス類」は、前年と比較して入荷量は減少し、品質低下や引き合いの弱さから単価安となった。「ガーベラ」は、産地での改植もあり前年と比較して入荷量は減少した。母の日需要があったものの、前年を下回る相場となった。

〔鉢物〕

取扱数量は前年比 1.0%増で、平均単価は前年並みであった。鉢花は、前年と比較して入荷量は増加した。ハイドラランジアを中心に母の日需要があったものの、前年と比較して単価安となった。観葉植物は、前年と比較して入荷量は減少し単価高となった。

主要品目別では、「カーネーション」は、開花遅延等の影響により、前年と比較して入荷量は減少した。一部のサイズや色味を中心に引き合い強く、単価高となった。「クレマチス」は、前年と比較して入荷量は増加し、単価安となった。「ファレノプシス」は、前年と比較して入荷量は減少した。母の日以降は大輪系、ミディ系ともに引き合いは弱まったものの、前年と比較して単価高となった。「ハイドラランジア」は、前年夏場の高温障害により成品率が低下し、入荷量は前年と比較して減少したことから堅調な相場となり、単価は前年を上回った。

6月

〔切花〕

取扱数量は前年比 4.4%増で、平均単価は前年比 7.7%高であった。例年より梅雨が短く、気温の高い日が続いた影響で、一部品目に生育が前進する傾向があり、前年と比較して入荷量は増加した。ひまわりを中心に父の日需要等があり安定した引き合いとなり、堅調な相場となった。

主要品目別では、「輪菊」は、前年と比較して入荷量は減少し、単価高となった。「スプレーカーネーション」は、前

年と比較して入荷量は増加した。安定した引き合いがあり単価高となった。「バラ」は、潤沢な入荷となるも相場は安定していたため、前年と比較して入荷量は増加し、単価高となった。「ガーベラ」は、梅雨の時期としては雨も少なかったため、品質低下が少なく安定した入荷となり、前年と比較して入荷量は増加し、単価高となった。

〔鉢物〕

取扱数量は前年比 2.9%減で、平均単価は前年比 1.0%高であった。鉢花は、前年と比較して入荷量は増加し、単価安となった。らん鉢は、前年と比較して入荷量は減少し、法人需要が落ち着いたこと等で単価安となった。観葉植物は、前年と比較して入荷量は減少し、単価高となった。

主要品目別では、「ペゴニア類」は、前年と比較して入荷量は増加した。生育良好で数量が増加したものの、気温の上昇とともに引き合いは弱くなり単価安となった。「ハイビスカス」は、暑さの影響により生育遅延等が生じ、前年と比較して入荷量は減少したものの、耐暑性からギフト商材としても引き合いがあり、前年を上回る相場となった。「ファレノプシス」は、お中元のギフト需要期前で出荷調整があり、前年と比較して入荷量は減少し、引き合いは弱く単価安となった。「ポトス」は、生育不良等により前年と比較して入荷量は減少し品薄感から単価高となった。

7月

〔切花〕

取扱数量は前年比 13.7%減で、平均単価は前年並みであった。例年に比べると気温が高くなる時期が早く到来し、生育が遅れる等の影響があり、入荷量は減少した。

主要品目別では、「輪菊」は、高温等の影響により、前年と比較して入荷量は減少し、単価高となった。「スプレーカーネーション」は、前年と比較して入荷量は減少したものの、引き合いが弱く単価安となった。「バラ」は、高温等の影響により、前年と比較して入荷量は減少し、引き合いが弱く単価安となった。「トルコキキョウ」は、前年と比較して入荷量は減少し、一定の引き合いがあったものの単価安となった。「ひまわり」は、前年と比較して入荷量は減少し、引き合いが強くなり単価高となった。

[鉢物]

取扱数量は前年比 2.9%増で、平均単価は前年比 3.3%高であった。鉢花は、前年と比較して入荷量は増加し、単価高となった。ほおずき等季節感のある商材や耐暑性のある商材を中心に比較的安定した相場となった。らん鉢は、前年と比較して入荷量は増加し、法人需要やギフト需要等もあり単価高となった。

主要品目別では、「ハイビスカス」は、暑さにも比較的強く生育順調で前年と比較して入荷量は増加し、引き合いが強くなり単価高となった。「ブーゲンビレア」は、高温による生育前進傾向で切り上りが早く前年と比較して入荷量は減少し、引き合いも弱く単価安となった。「ファレノプシス」は、前年と比較して入荷量は増加した。選挙需要等を見込んだ

が不調に終わり、単価は前年並みとなった。「ポトス」は、前年と比較して入荷量は増加し、一部サイズの品薄感等から単価高となった。

8月

[切花]

取扱数量は前年比 4.1%増で、平均単価は前年比 14.4%安であった。高温、干ばつの影響で開花遅延が生じたこともあり、入荷時期が前倒しとなり入荷量が減少していた前年を上回る入荷量となった。8月盆の需要となるが、猛暑続きで品質の低下等から引き合いが弱く、前年よりも低い単価で推移した。

主要品目別では、「輪菊」は、前年と比較して入荷量は増加した。高温の影響で品質の低下が生じる等、厳しい相場展開となった。「バラ」は、前年と比較して入荷量は減少した。高温の影響で例年より下位等級が多く、厳しい相場展開となった。「トルコキキョウ」は、高温の影響で前進開花となり、前年と比較して入荷量は増加した。お盆需要があったものの、上位等級が少ないこともあり前年と比較して単価安となった。「りんどう」は、高温障害が生じたものの前年と比較して入荷量は増加した。お盆までは活発な需要であったが、お盆以降は落ち着いた動きとなり前年と比較して単価安となった。

[鉢物]

取扱数量は前年比 2.3%増で、平均単価は前年比 4.4%

安であった。鉢花は、前年と比較して入荷量は増加した。カラコエやシャコバサボテン等の彩ある商材中心に引き合いがあったが、前年を下回る相場となった。らん鉢は、前年と比較して入荷量は増加した。白系を中心に堅調に推移したが、前年を下回る相場となった。

主要品目別では、「菊類」は、前年と比較して入荷量は増加した。お盆明け商材として引き合いがあったものの、前年を下回る相場となった。「りんどう」は、前年並みの入荷量となった。お盆明け商材として引き合い強く、単価高となった。「ハイビスカス」は、高温障害が生じたものも多く、前年と比較して入荷量は減少し、品薄による単価高となった。「ファレノプシス」は、前年と比較して入荷量は増加した。ミディ系はお盆商材としてアマビリスが定着するも、大輪系とともにやや引き合いが弱く、単価安となった。

9月

[切花]

取扱数量は前年比 2.8%減で、平均単価は前年比 3.5%安であった。生育期に高温少雨の天候が続いた影響により、一部品目で生育不良等が発生し、前年と比較して入荷量は減少した。秋の彼岸等の物日需要は堅調に推移したが、残暑が厳しく品質の低下等もあり前年を下回る相場となった。

主要品目別では、「輪菊」は、秀品率が低下したもののほぼ前年並みの入荷量で、下位等級中心に引き合いは強まったが、前年を下回る相場となった。「小菊」は、猛暑の影響による開花遅延や品質低下等により前年と比較して入荷量

は減少し、単価安となった。「スプレーカーネーション」は、前年と比較して入荷量が増加し、単価は前年を下回った。「りんどう」は、彼岸需要期以降も潤沢な入荷が続き、前年と比較して入荷量は増加し単価安となった。

[鉢物]

取扱数量は前年比 13.0%増で、前年並みの平均単価であった。鉢花は、前年と比較して入荷量は増加した。敬老の日向けのギフト需要等があったものの、前年を下回る相場となった。らん鉢は、前年と比較して入荷量は増加した。引き合いが弱く単価安となった。

主要品目別では、「ペゴニア類」は、前年同様猛暑の影響を受けており、入荷量、単価ともに、ほぼ前年並みとなった。「りんどう」は、品種や色が多彩になり敬老の日を中心に需要があり、前年と比較して入荷量は増加したが、引き合い弱く、前年を下回る単価となった。「カラコエ」は、開花遅延があったものの、入荷量は、ほぼ前年並みとなった。引き合い弱く、前年を下回る単価となった。「ファレノプシス」は、前年と比較して入荷量は増加した。大輪系は引き合いが強かったものの、ミディ系は苦戦が続き、前年を下回る単価となった。

10月

[切花]

取扱数量は前年比 4.7%増で、平均単価は前年比 5.6%安であった。高温による品質の低下等の影響もあったが、

数量伸び、猛暑の影響による品薄が顕著だった前年を上回る入荷量となった。ブライダル等の需要もあったが、天候も不安定で小売りの動き鈍く、軟調な相場となった。

主要品目別では、「輪菊」は、前年と比較して入荷量は増加した。国産が安定した入荷となったが、業務需要等の動きが鈍く、前年と比較して単価安となった。「小菊」は、前年と比較して入荷量は減少した。猛暑の影響を受けて下位等級が増加し、引き合いが弱く単価安となった。「バラ」は、ほぼ前年並みの入荷量となった。ブライダル等の業務需要中心に引き合いがあり、単価高となった。「くじゃく草」は、前年と比較して入荷量は減少し、引き合いが弱く、単価安となった。

[鉢物]

取扱数量は前年比 12.6%減で、平均単価は前年比 1.7%安であった。鉢花は、気温低下とともに開花遅延が解消され増加する品目や入荷が始まる品目もあったが、前年と比較して入荷量は減少した。園芸需要等は週末の天候不順の影響を受け、引き合い弱く前年を下回る単価となった。らん鉢は、開花鈍化等の影響により、前年と比較して入荷量は減少し、ほぼ前年並みの単価となった。

主要品目別では、「菊類」は、開花遅延気味だったガーデンマムは開花が進み入荷が潤沢にあったものの、その他の品目は減少傾向となり、前年と比較して入荷量は減少し、天候不順の影響も有り単価安となった。「ミニシクラメン」は、開花遅延気味で前年と比較して入荷量は減少し、堅調

な相場となった。「カランコエ」は、開花遅延が生じたものもあり前年と比較して入荷量は減少し、単価高となった。

「アザレア」は、産地減少等の影響により、入荷量は前年を下回り、単価高となった。

11月

[切花]

取扱数量は前年比 11.0%減で、平均単価は前年比 1.0%高であった。前年同時期は夏場の猛暑の影響による生育不良が生じていたため、今年は高温障害対策として定植時期をずらす等の調整を行った産地もあり、前年を下回る入荷量となった。洋花類において、ブライダル需要に加え、いい夫婦の日やクリスマス等のイベント需要により引き合いが強まり、単価高傾向となった。

主要品目別では、「輪菊」は、産地や品種の切り替わり時期であり、夏場の高温等の影響により前年と比較して入荷量は減少した。業務需要等の引き合いが弱く、単価安となった。「スプレー菊」は、前年と比較して入荷量は減少し、引き合いが弱く単価安となった。「バラ」は、前年並みの入荷量となった。業務需要中心に安定した引き合いがあり、単価高となった。「ガーベラ」は、天候不順による生育不良等から前年と比較して入荷量は減少した。業務需要等を中心に安定した引き合いがあり、品薄による単価高となった。

[鉢物]

取扱数量は前年比 7.2%減で、平均単価は前年比 5.5%

高であった。鉢花は、夏場の高温の影響による生育遅れ等から前年と比較して入荷量は減少し、品薄による単価高の傾向となった。らん鉢は、開花鈍化等があり、前年と比較して入荷量が減少し、品薄による単価高の傾向となった。

主要品目別では、「シクラメン」は、前年と比較して入荷量は減少した。開花遅延気味の影響から品薄となり前年を上回る単価となった。「シャコバサボテン」は、前年と比較して入荷量は減少し、引き合いはさほど強くないため前年並みの単価となった。「ポインセチア」は、前年と比較して入荷量は減少し、単価高となった。「シンビジューム類」は、入荷に遅延が生じ、前年と比較して入荷量は減少した。品薄となり前年を上回る単価となった。

12月

[切花]

取扱数量は前年比 3.6%増で、平均単価は前年比 9.9%安であった。厳しい生育環境ではあったが一部品目で前進出荷の傾向があったこと等により、前年と比較して入荷量は増加した。クリスマス商材の需要や年末需要向けの納品も本格化し潤沢な入荷量となったことから単価安の傾向となった。

松市は、春先から夏場の高温少雨等の影響により、「門松」「若松」ともに需要の高い下位等級の品薄が特に目立ち、入荷量は減少した。「門松」「若松」ともに上位等級の引き合い弱く、前年より低い相場となった。

千両市は、高温、干ばつの影響もあり特に上位等級が少

なく、全体としては前年を大きく下回る数量となった。品薄により上位等級から下位等級まで引き合いが強く、高値基調の相場となった。

主要品目別では、「輪菊」は、中旬以降に年末需要があったものの、前年と比較して入荷量は減少し、軟調な相場となった。「スプレー菊」は、前進出荷があったことにより、前年と比較して入荷量は増加し単価は前年を下回った。「小菊」は、開花遅延や生育不良があり、前年と比較して入荷量は減少し、単価安となった。「バラ」は、前年と比較して入荷量は減少し、単価高で推移した。「ガーベラ」は、前年と比較して入荷量は増加し、単価安で推移した。

[鉢物]

取扱数量は前年比 7.6%減で、平均単価は前年比 5.5%高であった。鉢花は、前年と比較して入荷量は減少した。時季の商材や耐寒性のある商材を中心に引き合いがあり、単価高となった。らん鉢は、前年と比較して入荷量は減少し、前年並みの単価となった。

主要品目別では、「シクラメン」は、前年と比較して入荷量は減少した。ギフト需要等の引き合いが弱く、前年を下回る相場となった。「プリムラ類」は、前年と比較して入荷量は減少し、単価高となった。「ポインセチア」は、前年と比較して入荷量は減少した。品薄感から引き合いがあり、前年と比較して単価高となった。「シンビジューム類」は、開花遅れの影響もあったが、前年と比較して入荷量は増加し、単価安となった。